

## 日韓・韓日未来パートナーシップ基金共同事業

### 日韓高校教師の交流事業を実施

#### —相互理解の増進により日韓関係の強化を図る—

2025年1月19日～24日

「日韓・韓日未来パートナーシップ基金」共同事業 日韓高校教師の交流プログラム  
参加者：韓国的高校教師50人

経団連と韓国経済人協会（韓経協）が共同で設立した日韓・韓日未来パートナーシップ基金は、共同事業の一環として1月19～24日の6日間、2024年に続き、韓国的高等学校教師50人（韓国教師団）を日本に招聘した。同事業は、若年層へ大きな影響力を有する高校教師に対し、対日理解と相互交流の増進を図ることによって、将来にわたり良好な日韓関係を構築することを目的としている。経済広報センター（十倉雅和会長）は、企業や学校への訪問、有識者によるレクチャー、歌舞伎鑑賞などの文化体験から構成される一連のプログラムの企画・運営を担った。

#### ■歓迎レセプションを開催～日韓教師が活発に意見交換

同月21日の歓迎レセプションにおいて、十倉会長は、日本の教育の現場の視察や企業訪問・レクチャー、文化イベントなどを通じて、日本そのものを体験し、韓国教師団の一人ひとりが日韓の懸け橋となることへ期待を述べた。

また、来賓の英利アルフィヤ外務大臣政務官、古賀信行日韓文化交流基金会長、姜明逸駐日韓国公使に続き、韓国教師団を代表して仁川国際高等学校の崔東錫教諭があいさつした。

崔氏は、未来世代である両国の高校生が互いに好感を持ち、未来社会のパートナーとして活発に交流することが重要であると指摘。これは、高校生が相互肯定的な考えと認識を持つ両国の教師と出会うことで可能となると強調した。さらに、日韓の高校教師が交流事業などを通じて、互いに正しい理解と肯定的な経験を持ち、それらを学生に教育を通じて伝えることで、両国の未来世代は、既成世代が持つ認識よりも、一層肯定的で建設的な関係をつくることができると述べた。

その後の懇談会では、24年8月に訪韓した日本の教師40人余りが参加して、韓国教師と活発に議論した。

#### ■有識者によるレクチャー～日本経済、東アジア情勢、教育の課題等について聴く

有識者によるレクチャーでは、日本経済、東アジアの国際情勢、日本の教育の現状について、慶應義塾大学総合政策学部の白井さゆり教授、同大学法学部政治学科の西野純也教授、東京学芸大学教職大学院の堀田龍也教授から説明を聴くとともに意見交換した。

## ■企業を訪問～日本経済のダイナミズムに触れる

Fujitsu Technology Parkでは、黎明期のリレー式コンピューター等を視察。続いて、「京」や「富岳」など最近のスーパーコンピューターの開発技術とそれを支える人材や組織文化について説明を聞いた。

鉄道博物館では、東日本旅客鉄道から、同社の事業、同社が目指す「究極の安全と全ての人の心豊かな生活の実現」や日本の鉄道の歴史について説明を聞いた。あわせて、実際の鉄道車両等、圧巻の展示を見学した。

中外製薬では、スイスのロシュ社との戦略的アライアンスによる業績拡大、新薬開発に関する創薬力、研究戦略としての技術ドリブンのアプローチについて説明を聞いた。

## ■特色ある3校を訪問～日韓の違いと共通課題を認識

学校訪問では、東京都立西高等学校において、授業見学、教師や生徒との懇談を行った。

広尾学園中学校高等学校では、日本の教育の課題、日本の大学の取り組み、日本の高等教育の国際化などについて説明を聞いた。

東京電機大学高等学校では、授業見学、教師や生徒との懇談を行うとともに、カフェテリアで昼食を取り、学校生活を食の観点から体験した。

韓国教師団からは、学校訪問を通じ、日本の教育現場に関する理解が深まったとの声が多く寄せられた。



25年8月には、日本の高校教師約50人が韓国を訪問する予定である。今回が3回目となる相互交流を通じて、日韓教師間のネットワークが着実に構築されている。これを生かしつつ、同事業を継続し、次代を担う両国の高校生が、より肯定的かつ建設的な関係を結んでいくよう期待する。

以 上



鉄道博物館を訪問

一般財団法人

# 経済広報センター

国際広報部

〒100-0004 東京都千代田区大手町 1-3-2 経団連会館 19 階

電話：03-6741-0031

<https://www.kkc.or.jp/>

<https://en.kkc.or.jp/>

※本稿の無断転載を禁じます。